
宇宙人

のーこ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

宇宙人

【Nコード】

N2513I

【作者名】

のーこ

【あらすじ】

わたしは、宇宙人かもしれない。

わたしは、宇宙人かもしれない。

今朝起きたら、どうも左腕が痒くて堪らなかった。

だからずっとボリボリ搔いていたのだけれど、ふと皮膚を見ると、1ミリ程の厚さの皮が剥けかかっていた。

おや、と思い、爪で引っ搔くようにして剥いてみると、下には変わらず綺麗な皮膚があった。

しかしこの皮、面白いほどによく剥ける。

スルスルと、まるで剥けて当然の物かのように、腕のかたちそっくりに剥けていく。

そしてそれは全身に広がっている。

つまり、左腕だけでなく右腕も、腹部も、ということだ。

首から上は、怖くて剥けなかったが。

だって、もしも皮膚の内側のわたしの顔が、別人のようになっていたら嫌だから。

それに髪の毛がどうなるのか、考えただけでも恐ろしかった。

そんなことを考えている間に、皮はもう足の先までできていた。

いろいろと心配していた体毛などは、しっかり生えたままだし、爪もはがれていない。

鏡で全身を確認したが、何も変化はなかった。

わたしの皮膚の内側は、わたしだった。

わたしは永遠にわたしなんだ。

そう、思った。

それにしても、21年生きてきたなかで、全身から厚さ1ミリもの皮が剥ける体験なんてしたことがなかったので、わたしは宇宙人かもしれないと思った。

一皮剥けた身体で、コーヒーを一口飲んだ。

それはとっくに冷めてしまっていた物だけど、今までに飲んだどんなコーヒーよりも、おいしかった。

終

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2513i/>

宇宙人

2010年10月11日00時27分発行